

新著紹介

現代英文學講話 小日向定次郎著

「森に住む人には、樹々の姿形が各々その種類によつて異つて見ゆるやうに、その聲が違つて聞える。風が吹くとき、樅の木が打ち揺らぎ、欒カシくやうに呻めく。冬青冬青が技を振り廻しながら、ひら／＼とうそぶく。黍皮トリスがぶる／＼胸振むねふひして、歌々と鳴る。樺の扁平な技がのりかゞみしてざわめく。……どんな毛蟲がどんな蝶に化けると言ふとは、昆蟲學者にはわかりきつたことであるが、それほど明確でなくとも、鋭敏な直覺をもつてゐる人や、緻密な觀察を怠らない人には、自然界の事實、社會人事の現象が可なり燎然とその心や眼に映つる。詩人や小説家や戯曲家が自然界及び活社會の鏡となつて、直覺したり或は觀察したりしたことも筆にのぼす。複雑な實世間が描き出される。即ち人間の生活狀態が寫されて、醫學や哲學や心理學やその他いろ／＼の學問上の研究の材料となる。」

といふのが今茲に吾人が本誌の讀者に紹介しやうといふ書物の中に見える一節である。「現代英文學講話」一節十章よく此趣旨を以つて、讀者をば美しき詩の國、深い瞑想の境に導き、又様々な現代生活の種々雑多な方面に我々の眼を開いて、その提唱する色々の問題について我々を考へさせる。

一體、現實界の壓迫から我々を解放して、自由な世界に高踏さして哭れる藝術家の想像力には、現實界以上に現實な「あるも

の」を作り出す力を備えて居る。人もしハムレットやドンキホーテを以つて、單に架空の人物に過ぎないと考へるならば、それは極めて淺はかな見解たるを脱れぬ。ハムレットやドンキホーテは現に此世に實在して居る我れ／＼以上の實在性をもつて居る。「詩與が湧いて來ると、終日食物を取らない。他人から注意されて初めて食事をする。けれども一度食べ始めると、いつ迄も食べ續けるといふ風である」といふイエーツは「君に與へんに美しき衣も持たず、貧しき我に夢めあるのみ、來ませその夢に乘りて」と歌つて居る。此の夢には、まさしく不朽者の呼吸が掛かつて居るのである。

露深き夜の森に奇しき運命の種蒔くアス、剛腹隱忍よく巨萬の富を積んだが、時至れば手にせる盃の泡の如くに消えて行くスウイジン、「女！女！あらゆる女が悉く私のやうな涙を流し、私のやうな闘争をして來た。……何の爲めでせう。みんなあなた方男といふ放蕩者のためである」と絶叫して信なき男を刺せるナン、いやいくら擧げても際限がないが、これ等の人物は畢竟、作者の精神に於て自ら生起し、自ら發展して行く生命を備えた心象である。従つてこれ等文藝作品中の人物の一舉手一投足には、直ちに人性の根本律が働いて居る。そこに文藝の盡きざる生命があるのである。かの心理學者が、みだりに獨斷に捕はれたり、自然科學的實驗に傾いたりするよりは、寧ろ藝術の天才の作品によつて、人間精神の働いて行く有様を究むるがよろしいとは、遠くはかの獨逸浪漫派のノヴァリスから、近くは我々が嘗つて本誌に於て紹介したディルタイ等の主張して居る處である。

文藝の創作といふ働きがそふいものであると同時に、又其鑑賞といふ事も甚だ興味ある精神作用である。普通、創作は作家の自由なる想像力の發現であり、かくして出來上つた作品を了解するには人間の悟性の努力を俟つて初めて出來るものと考へられて居る。然し元來、創作と理解とは、見方によつては、同じ種類の働きであるとも云へる。我々は藝術家の心象の活動をば我々の精神に於て繰り返して體驗することなしには、到底其作品を充分に理解する事は六かしい。即ち我々自身が作家の型に従つて創作をして行くといふ事である。此點に於て吾人は「現代英文學講話」の著者の勞を甚だ多とせねばならぬ。勿論其序文に於て著者が宜言して居るやうに、英文學研究者のために手引となるといふのが本書の主なる目的であらうが、我々は更に著者が或はコントラツドの紹介に南海の潮の濺りを忍ばせ、或はキツブリングの話にエキゾテックな東洋的情調を味はせ、又は現代劇にあらはれた女性の研究に、現代人の心理狀態を解剖して、その提示する色々の問題について、考へざるを得ざらしむる點に於て、本書は我々がさきに述べた趣旨をば、具體的に最もよく實現したものと云ふ事か出來る。我々は文學批評家としての著者の濼著と手腕とを認めなければならぬ。これ吾人が茲に本誌を通じて此一巻をば、斯學の研究者はもとより廣く世の讀書子に推舉する所以である。

緒論、第一講現代美文研究、第二講現代詩人に就いて、第三講現代小説と如實描寫、第四講經驗に基ける現代小説、第五講短篇小説とその作家、第六講現代劇の物興、第七講新浪漫的戯曲、第八講現代劇と其問題、第九講現代劇に見えたる犯罪、第十講チヨ

新著紹介

ン、ゴルズワージーとバーナード、シヨツ、附録 現代劇に見えたる女性研究、婦人問題とチニソンの詩、文藝と現代思潮、東京廻町富士見町研究社發行。壹圓七拾錢。(膝部謙造)

寄贈書籍雜誌

民本主義と國民教育 橋本文壽著 東京寶文館
 心理研究、東亞之光、無盡燈、學校教育、内外教育評論、國民教育、小學研究、教育學術界、教育研究、教育時論、東京教育、近江教育、岐阜縣教育、三重教育、愛知教育、佐賀教育、長崎縣教育雜誌、宮城教育、哲々雜誌、丁酉倫理講演集、六條學報、早稻田文學、文化運河、奈良縣教育、信濃教育、都市教育、愛媛教育、

正誤

識別作用の非相稱性に關する實驗的研究

號	頁	行	誤	正
二七	三二	三	3.	6.
同	三六	一三	盾に	盾法に
同	三八	五	Vol	Vol.
同	同	七	22	22
同	同	九	16	123
同	同	一六	1000	1000
同	一〇四	同	0.50 1.50 1.00 0.50 0.50 1.00	
同	同	一八	0.89	1.89
同	同	二〇	1.00	1.10